

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	当グループホームの理念は法人の理念を踏まえて職員で話し合っ決定した「ゆったり 一緒に こちよく」である。ホーム内の玄関、談話室、スタッフルーム、更衣室、パンフレットに掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念はスタッフルーム、更衣室の目のつきやすい場所に掲示しており、常に意識し、心がけを行えるようにしている。職員は各御利用者の生活リズムを把握し、それぞれのニーズにあったケアを行えるよう指導し、業務にあたっている。それぞれの御利用者が自然な時間を過ごせるよう取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	御家族には入居時に理念の説明を行っているほか、ホーム広報や運営推進会議、ホームの壁に理念を貼ったりし、理解していただくよう取り組んでいる。地域の方には、直接浸透する働きかけはしていないが、玄関に理念を貼っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	お隣り様には行事がある度お誘いするようにし、交流が深まってきている。行事や勉強会、運営推進会議などにも参加いただいております、気軽に来て頂く機会が増えてきている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	現在は町内会には入ることができていないが入会できるようアプローチは行っている。久御山町主催の福祉祭りには御利用者の作品を出展している。4月以降はインフルエンザの影響で童謡を楽しむ会に参加できていない。古川をきれいにする会への職員参加も行っており地域住民との交流の一環となっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などを通じて協力できることはないか話し合っている。近隣住民(高齢者)を呼んでの緊急救命訓練を行った。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行うことで現在のホームの改善点を見い出し、ひとつひとつ改善していくよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、町、地域包括支援センター、近隣住民、御家族、入居者等にサービスの報告を行っている。また、会議の意見を行事内容やホームの問題点の改善などのサービスにいかして取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の長寿健康課に行事の際の必要物品を貸していただいたり、情報を頂いたりしている。	○	現在以上に役場の長寿健康課とは交流を持つようにし、当事業所のサービス向上につながるための情報や協力を得るようにする。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については個々に学ぶようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員同士が虐待がおこらないように注意し、業務にあたっている。高齢者虐待に関する資料による指導やマニュアルによる身体拘束の防止についての記載もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしっかりと行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には随時、意見を聞いている。定期的に介護サポーターが外部から来られ、外部者への意見や話が出る機会もある。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族には面会時などに入居者の体調や様子について報告している。また、体調の変化があれば随時報告・連絡している。毎月の請求時に広報の「ほっと便り」をお渡しし、施設や御利用者の状況を写真を交えて知ることができる。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置している。御家族から御意見・御要望があれば反映させている。運営推進会議にも御家族への参加を促しており、その場では色々と意見も伺うことが出来ており、参考にさせていただいている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全体ミーティングを行い、職員の意見を聞き確認している。それ以外の常日頃でも職員の意見や提案に対しては話せる雰囲気作りを意識し、運営に反映させるよう心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員に説明を行い必要人員の確保のための調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が法人の別事業の立ち上げなどの理由もあり2回あった。職員の人事異動、入退職は多いが、その際は御利用者への影響を最小限に抑えるようしっかり傾聴するようミーティングなどにてケアについての努力を行っている。	○	離職を防ぐべく、職場の働きやすい環境づくりに努める。意見や相談を受け入れやすい雰囲気を持つ。ホーム職員の異動も極力少なくできるように法人への働きかけをおこなっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>可能な範囲で常勤、非常勤にかかわらず研修参加してもらっている。新入職員には新入職員研修に参加していただいた。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は同業者との定期的な交流は持っていない。</p>	<p>○ 地域の同業者との交流はより良いケアに繋げるための情報を交換の場でもあり、交流の場を持てるように働きかけるようにする。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ミーティングだけでなく個別に意見等を聞いてスタッフが働きやすいよう配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員にはレクリエーション、園芸、行事などの担当を持ってもらい各自責任を持って当施設の各部門を引っばっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者の抱えている悩みや不穏要素を職員皆でミーティングや申し送りにて情報共有するようにし、御利用者が不安を感じている雰囲気の際は積極的に傾聴するようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時、運営推進会議、サービス担当者会議などで御家族からの相談等に応じている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族や入居者とアセスメントや相談を行い、現在の施設環境よりも本人に合っている環境と考えられた場合、他サービスでの支援についての相談を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは本人、家族と相談し、本人の今までの生活の流れをしっかりと調査を行い本人の生活リズムを尊重してホームの1日の流れや人間関係、環境などの説明を行う。お互い歩み寄り、快適な生活環境づくりを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自尊心や残存能力を大切にし、自立した生活を送る為に必要な部分の援助を行いながら共に生活することを心がけている。特に日常生活における生活リハビリは職員と共に積極的に行っていた中で信頼関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族にはホーム生活についての必要物品の購入や受診、面会などによる御利用者の精神面のケアの協力を得ている。行事などへの参加も協力をお願いしており、喜怒哀楽の共有時間を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族には積極的に関わりを持ち、本人と家族との関係については理解するようにしている。それぞれに合わせた関係作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に関しては交流のある方は面会いただいたりしている。葉書による交流ももっておられるケースもあり、その際は支援、協力をおこなっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係性には十分な配慮している。入居者同士が関わり合えるようサービス内容を配慮しているが、交流が苦手な御利用者の場合無理強いせず、本人に合わせたペースで参加いただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在はサービス終了後継続的な関わりを持つ必要がある方はおられません。継続的に関わりが必要な御利用者が出た場合関係を継続するよう心がける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や以降、希望をアセスメントシートや聞き取り等で状況を把握し、その意向に沿える自然な日常生活を送れるよう配慮している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の生活歴、生活環境をアセスメントシートにしている。情報が増える度更新するようにしている。各職員にはアセスメントシートをしっかりと把握してもらうようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントシート、申し送りノート、カルテを通じて個々に把握するよう努めている。情報共有のためのミーティングにより再確認も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時、御家族と本人よりしっかりと聞き取りとアセスメントを行い介護計画を作成している。作成後、御家族様の意向は必ず再度聞くようにし、更に良い内容があった場合、反映し、変更や追加をするようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて必ずその時の本人の状態を考え介護計画の見直しを行うようにしている。見直し以前に対応出来ないケースは見られなかったが、必要が生じる場合は本人、御家族、関係者にて話し合い、介護計画の変更を行うよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に準じた本人への実践、結果、気づきについては個別記録に残すようにしている。個別記録は全職員に出勤時に熟読するように指導しており、介護計画の見直しの際も参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人で外出可能な御利用者には外出時安全に外出いただける環境づくりに心がけるなど、柔軟性のある支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴、腹話術、マジック、オカリナ、尺八と様々なボランティアにホームに来ていただいて、御利用者、職員と共に楽しませていただいている。消防署とは緊急救命訓練などで合同して職員のスキルアップにつなげ、支援に活かしている。介護サポーターも定期的に来所され、交流を持ち支援につなげている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や御家族の意向や必要性に応じて病院や特養や老健との関わり合いを持ち、今後の必要に応じたサービス利用についての支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとは運営推進会議にてホームの現状を報告しているが長期的なケアマネジメントについての協働は特に行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の意向を尊重し、かかりつけ医の御利用は継続するようにしている。受診時間外で緊急を要する場合にはホームの提携病院を利用するようにしているが通常の通院に関してはかかりつけ医を利用されている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療を要する御利用者様に関してはもの忘れ外来や精神科などで治療を受けている。今後も診察や治療が必要な御利用者には受診いただくよう努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員(保健士も含む)は定期的にホームに来ており、その際は気軽に相談や健康管理の支援を行っている。ホームでの介護職員ではわからない事について気軽に電話などでも相談をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御利用者が入院時は現状を把握するのとホームへの帰設への意欲を出したり元気づけるよう面会を頻回に行うようにしている。その際は病院には現状確認や今後ホームに戻った際のアドバイスをいただいたりしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、グループホームでの終末期の方針について明文化はしていない。	○	今後、終末期についての明文化や方針を確定していくように進めていく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、終末期の方はおられないが、重度化してこられている方について、かかりつけ医と連携をとりながらチームでの話し合いをし、より良いケアに向けて取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院による一時移転の際は病院への連携を取り、しっかり情報交換を行っている。できる限り、御家族の協力や、職員が顔を出すようにする事で環境の変化に対する御利用者の負担を軽減するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーについては御利用者の気持ちを第一に尊重し配慮するよう対応している。個人情報の取り扱いについては充分配慮し漏洩のないよう努めている。個人情報の取り扱いについて玄関にて常に貼りだしをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の気持ちや自己決定を尊重し、できる限り自分の決定した事を納得して行動し、生活していただくようにしていただいている。その為に必要となる援助を支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活リズムを続けるためにおおまかな業務日程はあるがその時の御利用者のペースに合わせて過ごしていただくようにし、自己決定を尊重するよう努め、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容については馴染みの店がある場合は御家族の協力を得ながら通っていただいている御利用者もおられる。馴染みの店がない方は出張美容室の利用をされており、それが現在では馴染みの店となっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には準備などを手伝っていただくようにしている。ただし、本人の気持ちを尊重し、自主的な活動にて作業していただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関しては、習慣性のある方はおられないない為、現在ではお酒はお正月や鍋レク以外ではお出しすることはほとんどない。ホーム内は禁煙であるが、現在の御利用者喫煙の習慣の方はおられない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	御利用者個々の排泄パターン、リズムを把握するようにし、声掛けするタイミング、時間などをミーティングで話し合い気持ちよく生活していただけるよう支援に繋げている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間、曜日は入居者や御家族の同意のもとで曜日は決まっている。ただし、本人の状況や希望に合わせて変更する等のゆとりを持った対応を取っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣や体調に合わせて昼夜問わず居室やソファを自由に利用いただきゆっくりと休息や入眠していただけるよう声掛け等の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各御利用者には生活の中で、自分のできる範囲での役割を持って過ごしていただいている。農家だった方には畑について教えてもらったり、裁縫が得意な方には縫い物を手伝っていただいたりし、作業やレクの中から生きがいや張り合いを持っていただくようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に事務所の金庫に保管しており、買い物時やお出かけ時などの必要時に介助を交えたりしながら本人が使用されている。金銭管理可能な方は御家族了承の元で自己管理し、使用していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出レクはもちろん、それ以外にも出来るだけ天候の良い日に外出機会を設けて、散歩や買い物、地域のホール等に出かけていただいている。一人で外出可能な御利用者は外出前の体調チェックや変化に気をつけ外出いただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクでは御家族への参加も促しており、一緒に出掛ける機会を設けている。それ以外にも御家族と御利用者との外出や外食の時間を持っていただくようお願いすることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、手紙や電話のやりとりを職員がちゃんと相手先に届いたり繋がるように支援をしながら継続されている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの知り合いや友人、御家族については気軽に訪問されている。他の御利用者と交流を持つ場面もみられている。居室や談話室も利用され居心地の良い空間作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルにも組み込んでおり、各職員には指導し、理解いただくようにし、身体拘束を行わないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は昼夜基本的に防犯のためにかけているが、ちょっとしたお出かけですぐ戻られる場面などで開放を希望されるケースでは開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	巡回時や、トイレ時に確認が必要な方には本人のプライバシーに配慮し、上手にコミュニケーションをとりながら入居者の状態、様子確認を行っている。一人で外出される御利用者には必ず行き先を伝えていただきようお願いしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物の基準は非常に難しいが、ひとりひとりの状態を見ながら、注意が必要な物に関して本人が必要とされ、上手に扱っておられる場合は使用いただいている。明らかに危険な物に関しては必要でない限り持ち込まないようお願いしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息時、誤薬の対応については過去の事例を全職員にミーティングやできごと共有書やカルテなどに記録や対策、対応などを伝達して知識を学んでもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署も交えての緊急救命訓練を行い対応の知識を得ている。それ以外でも社内での勉強会などで研修するケースもある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防、避難訓練をおこなっている。近隣の方とも連携をとり、お互いに協力関係を持てるよう交流をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族にはホームでの生活は自然な生活環境づくりを目指していることを説明しており、そのために抑圧感のない自然な生活を大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、全員のバイタルチェックを行っている。変化に関しては気付きをすぐに行うように心がけ、気付きがあれば申し送りノートやカルテにて情報を共有するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や作用についてはカルテにて確認ができるようになっている。薬変更があった際は申し送りノートやカルテにて職員間で情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給をあまりされず、便秘気味の御利用者には水分補給の促しをしっかりとるように申し送りやミーティングで伝えるようにしている。腹部の「の」の字マッサージなども活用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては自主的に行動されるようお願いしているが、自立で行えない方は声掛け、一部支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携を取りながら、各御利用者と食事量と水分量、栄養バランスを考えながら食事作りなどの際、個々に合った支援を出来る限り行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して、手洗いやうがいは清掃後やお出かけ後に徹底して行うようにしている。感染症の恐れのある御利用者が出た場合、説明を行い、作業レクの中止や清掃の際、ハイター拭きを行うようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	いつも新鮮な食材を毎日買い出しを行っており、冷蔵庫内の使いかけの野菜や肉には日を記入し、視覚や臭いと併せて確認するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外観は住宅街に溶け込むような雰囲気になっており、お隣りの方も気軽に訪れられている。あまり派手になりすぎないように近隣に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節感を感じていただけるように季節の装飾を行うようにしている。不快な音や光と思われるものは排除しており、居心地良い空間作りに心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけではなく、家族室も開放しており、一人になりたい希望時や、気分転換時などに時折り自由に御利用をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談しながら馴染みの物を依頼して持参していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いがたまったり、空気のだよみがおこらないよう、換気や消臭剤の利用をしっかりと行っている。館内は常に適温を保つように心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーであり、本人の状態に合わせて必要な福祉用具を取り付けたりしながら自立につながる生活につなげている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力をアセスメントシートなどで把握し、自立生活に足りない部分の適切な援助を補い援助を行うようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日にはウッドデッキや畑に出てもらって日なたぼっこや収穫などにて利用している。行事にてバーベキューなどでも中庭を利用したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)